

歴史遺産学科 文化財保存修復・歴史文化コース 履修モデル(2018年度以降入学生)

			資格関係科目		教育・研究	伝統文化産業	地域文化産業						
			教職	学芸員	進学・教員・学芸員・研究・技術職その他 京都造形芸術大学大学院・京都府立大学大学院・中学・高校・歴史・民俗系博物館・寺院・企業資料館・地方公務員研究職・考古系・自然系研究所、文化財保存修復職	製造・技術・販売・企画・営業、事務その他サービス 表具師、仏師、仏神具、鋳金具、茶道具、和服、小物、茶道、華道、染織、出版社、観光、社寺事務、NPO法人	製造・販売・企画・営業、事務その他サービス 食品、衣服、住宅、工場、農林水産業、百貨店、外食産業、不動産、鉄道、旅行代理店、銀行、郵便局、JA、ホテル・旅館						
修士	2年												
	1年												
4	研究テーマを定め、卒業論文にとりくむ	後期	教育実践演習		卒業研究・制作								
	前期	教育実習	博物館実習Ⅱ	(芸術分野特論・原論)※			歴史遺産学総合演習Ⅲ(4回生ゼミ・卒論)						
3	専門領域の実践的課題にとりくむ	後期	社会科・地歴科教育法 教育方法		歴史遺産学総合演習Ⅱ(3回生ゼミ・プレ卒論)								
		前期	地理歴史科教育法 教育課程論 教育制度論	博物館実習Ⅰ 博物館経営論	歴史遺産学プロジェクト演習Ⅲ(A~Cから1つ選択) A:歴史文化系 / B:文化財保存修復系 / C:考古学・歴史まちづくり系	日本史特論Ⅳ	インターンシップ	歴史遺産学総合演習Ⅰ(3回生ゼミ・プレ卒論)					
2	進路をみさえ、専門領域を選択する	後期	社会教育法 教育相談 生徒・進路指導論 特別活動論	博物館教育論 博物館情報・メディア論 博物館資料保存論	歴史遺産プロジェクト演習Ⅰ(A~Cから1つ選択) A:歴史文化系 / B:文化財保存修復系 / C:考古学・歴史まちづくり系	歴史遺産学基礎実習Ⅲ	古文書演習Ⅲ	古文書演習Ⅳ	京都地誌Ⅱ	日本史特論Ⅱ	伝統文化演習Ⅱ	宗教学概論	人文地理学Ⅱ
	専門的知識・技術を身につける	前期	道徳教育の理論と実践 教育心理学 教育原理	生涯学習概論 博物館資料論 博物館概論	歴史遺産学基礎実習Ⅱ	古文書演習Ⅰ	古文書演習Ⅱ	京都地誌Ⅰ	日本史特論Ⅰ	伝統文化演習Ⅰ	人文地理学Ⅰ	外国史	
1	歴史遺産学の多様性を学ぶ	後期	教師論		歴史遺産学基礎実習Ⅰ	歴史遺産学概論Ⅱ(文化財保存修復論)			コンピュータ演習	文化財庭園論	文化財建造物論	装潢文化財論	考古学Ⅱ
	調査・研究の基礎を身につける	前期			歴史遺産学概論Ⅰ(歴史文化論)	保存科学論	仏教芸術論	民俗文化財論	考古学Ⅰ	フィールドワークⅠ(現地で学ぶ)			

※大学院特別選抜制度…合格すると、4年次に在籍しながら、大学院の講義科目が履修できます。

凡例: …社会実装科目
…必修科目
 …選択科目

歴史遺産学科 文化財保存修復・歴史文化コース カリキュラムマップ

人材育成目標(学科)	
現代社会における自らの立ち位置・役割を主体的に理解し、歴史的な観点から社会の諸問題に取り組みたいと志す学生を「人間力」として育成する。また、歴史遺産の調査・保存修復・活用に関する実践的知識を習得し、新たな人材の育成に貢献する。また、歴史遺産の調査・保存修復・活用に関する実践的知識を習得し、新たな人材の育成に貢献する。	「創造力」として育成することにより、文化財保存修復士はじめ、伝統文化・地域文化産業で活躍できる人材、社会科教員・研究者の育成を図る。

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位 必修/選択	テーマ	授業概要	到達目標	創造力				人間力				
		1	2	3	4					探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力		
歴史遺産学概論I	講義	1	2	3	4	前期	2	歴史文化学入門	①歴史的視座から物事をとらえること、特に史料による研究の基礎を学ぶ。②伝統文化について基礎的知識を身に付ける。③自身の居住地等に関する歴史文化について、歴史遺産を通じて考察を身に付け、考えを文章にまとめる。	30	30	0	20	0	20	0		
歴史遺産学概論II	講義	1	2	3	4	後期	2	文化財保存修復入門	①文化財保護思想の発祥と展開について理解し、文化財保護法や世界遺産条約等の諸制度に関する基礎知識を身に付ける。②文化財保存修復の基礎となる各種調査法の概要を理解する。③現代における文化財保存修復の取り組みについて幅広い観点から理解し、その現代的意義について自身の見解を文章にまとめる。	30	30	0	20	40	0	20	40	0
京都地誌I	講義	2	3	4	前期	2	地図・史料にみる京都地誌—都市構造と空間認識を中心に—	京都の歴史地理的な知識を取得し、京都に関する理解を深め、京都の歴史遺産との関わり方を積極的に考えられる。自らフィールドに出て、京都の町と直に触れる機会を設け、情報を集めてそこから考えることを期待する。	30	20	30	0	20	0	0	0		
京都地誌II	講義	2	3	4	後期	2	地図・史料にみる京都地誌—都市構造と空間認識を中心に—	京都の歴史地理的な知識を取得し、京都に関する理解を深め、京都の歴史遺産との関わり方を積極的に考えられる。フィールドに出た時の行動の仕方についても発想できるように、広く紹介できるようにする。	30	20	30	0	20	0	0	0		
人文地理学I	講義	2	3	4	前期	2	景観からみる地域らしさ	景観は地域の自然の中に暮らす人々の歴史や文化で紡ぎだされる。「地域らしさ」のある景観は「文化的景観」という文化財の1つとしてとらえられるようになった。この景観から歴史・文化を読み解くことの面白さと、文化財としての意義である文化的景観を調査・評価・活用していくことの重要性について考える。	30	30	30	20	20	0	0			
人文地理学II	講義	2	3	4	後期	2	地図と景観	地理学の基礎資料の1つである地図の歴史と、歴史遺産研究における地図利用の有効性を論じる。	30	30	30	40	0	0	0	0		
自然地理学	講義	2	3	4	前期	2	自然と人間の共生を考察する地理学	身近な生活環境としての自然について講義する。今日における環境問題を自然と人間の共生の観点からとらえ、自然史の観点から考察する。	10	20	20	20	10	10	10			
アジア史 2019年度休講	講義	2	3	4	前期	2	東アジアの文化および日本との交流の歴史を知ることで、日本社会の多様性を知り、未来への展望を持つ多文化共生の意味を考える。	日本の歴史と社会をいつの時代でも東アジアとの関連でとらえること、日本人や日本文化の多様性を認識できる視野をもつこと。	70	30	0	0	0	0	0			
外国史	講義	2	3	4	前期	2	西洋史と世界遺産	「世界遺産」にまつわる歴史を中心に、西洋世界の成り立ち、影響についての基礎的な知識を学ぶ。	1. 世界遺産についての基礎知識を身に付ける。 2. 西洋の歴史的な成り立ちを知り、現代世界の諸問題について深く洞察できるようにする。	20	20	40	40	0	20	40		
考古学I	講義	1	2	3	4	前期	2	考古学の世界と日本の古代の技術	はじめて有名な古代遺跡の調査を紹介しながら考古学の世界を解説する。モノ(物質文化)を扱う学問としての具体的な手法(発掘や分析方法)や歴史研究における役割について講義する。	40	20	40	0	0	0	0		
考古学II	講義	1	2	3	4	後期	2	年代を知る方法と古代の技術	歴史時代の考古学の世界	考古資料から年代や古代の技術を復元する上で、多くの視点と方法があることを理解できるようにすること。 過去人類の残した物質文化をもとに具体的な歴史復元が可能か、とくに歴史時代の考古学調査・研究の方法を理解することを旨とする。	40	20	40	0	0	0	0	
伝統文化演習IA	演習	2	3	4	前期	2	茶の湯を楽しむI	茶の湯の作法を知ることで、日本の生活文化と茶の湯との密接な関係を学ぶ。	1. 日本の春・夏の季節を掛軸、茶花などから感じ取る。 2. 季節の御茶・菓子のいただき方、挨拶など客としての振る舞いができる。 3. 風呂の点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。	0	0	0	50	100	0	50	100	
伝統文化演習IIA	演習	2	3	4	後期	2	茶の湯を楽しむII	茶の湯の作法を知ることで、日本の生活文化と茶の湯との密接な関係を学ぶ。	1. 日本の秋・冬の季節を掛軸、茶花などから感じ取る。 2. 露の季節の御茶・菓子のいただき方、挨拶など客としての振る舞いができる。 3. 屏の点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。	0	0	0	50	100	0	50	100	
伝統文化演習IB	演習	2	3	4	前期	2	煎茶の真の茶味とは何かI	京の理の伝統文化としての煎茶に触れ、その核となる「最上の茶味」を得る技法を習得し、現代の生活に生かす方法を学ぶ。	日常茶飯の煎茶とは異なる、もう一つの茶道としての煎茶文化への認識を高めるとともに、煎茶の淹れ方の基本を学ぶ。	0	0	0	50	100	0	50	100	
伝統文化演習IIB	演習	2	3	4	後期	2	煎茶の真の茶味とは何かII	京の理の伝統文化としての煎茶に触れ、その核となる「最上の茶味」を得る技法を習得し、現代の生活に生かす方法を学ぶ。	日常茶飯の煎茶とは異なる、もう一つの茶道としての煎茶文化への認識をさらに高めるとともに、煎茶の淹れ方に習熟することをめざす。	0	0	0	50	100	0	50	100	
コンピュータ演習	演習	1	2	3	4	後期	2	GISなどのコンピュータ技術を利用した歴史遺産に関する情報の整理・分析と地図化	歴史遺産に関する情報を題材にGIS(地理情報システム)やグラフィック作成ツールなどのコンピュータソフトを用いて、情報の収集・整理および分析を地図化についての技術修得を目指す。	10	20	20	30	0	20	40		
文化財概論(歴史文化論II)	講義	1	2	3	4	後期	2	文化財概論の保存と修復・活用	世界の遺産の代表的な様式を概説し、その保存と修復・活用の現状と課題について文献調査や発掘調査、修理事業の成果をもとに考察する。	1. 遺産の諸様式についての基礎知識を身に付け、見分けの力を身に付ける。2. 日本の代表的な文化財遺産について基礎知識を身に付け、その特徴を理解する。3. 文化財遺産の保存と活用について諸事例を学び、現状の課題を把握して解決策の提案ができる。	30	30	40	40	0	0	0	
文化財建造物論(歴史遺産各論I)	講義	1	2	3	4	後期	2	文化財建造物の保存と修復・活用	世界の歴史的建造物の代表的な諸様式を概説し、その保存と修復・活用の現状と課題について、文献調査や発掘調査、修理事業の成果をもとに考察する。	1. 建築の諸様式についての基礎知識を身に付け、見分けの力を身に付ける。2. 日本の代表的な文化財建造物について基礎知識を身に付け、その特徴を理解する。3. 文化財建造物の保存と活用について諸事例を学び、現状の課題を把握して解決策の提案ができる。	30	30	40	40	0	0	0	
仏教芸術論(歴史遺産各論II)	講義	1	2	3	4	前期	2	仏教絵画・仏像を学ぶ	①仏教思想を背景とした芸術の全容について基礎知識を身に付ける。②日本の絵画史と彫刻史に関する基礎知識を身に付ける。③仏教絵画・仏像の時代による様式及び歴史的・思想的背景を学び、それらを見分けるポイントを理解する。④仏教芸術の文化遺産としての価値について、自身の考えを文章にまとめる。	30	30	40	0	0	0	0		
装こう文化財論(歴史遺産各論III)	講義	1	2	3	4	後期	2	装こう文化財基礎	装こう文化財は絵画作品と書籍・典籍・古文書作品に大きく分かれる。これらの文化財は作品単体で存在するのではなく、装丁を伴った伝統的な形態で存在している。それぞれの素材や構造の歴史的変遷を辿り、その保存修復の考え方や技術などについて概説する。	40	40	0	0	0	20	40		
保存科学論(歴史遺産特講I)	講義	1	2	3	4	前期	2	正倉院宝物の保存と構成材料	正倉院宝物の保存に関する、過去および現在の取り組み、あるいは現在宝物の置かれている保存環境(空気環境・微生物状況・湿度環境)について講義する。また正倉院宝物に用いられた素材についても詳しく講義する。	50	50	0	0	0	0	0		
民俗文化財論(歴史遺産特講II)	講義	1	2	3	4	前期	2	生活資料としての民俗文化財	衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する民俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋など、有形・無形の民俗文化財について、代表的な事例を通じて学ぶ。また、これらによって日本の生活の推移を理解するための方法論について学ぶとともに、その保存修復に関する基礎知識を学ぶ。	30	20	30	20	0	0	0		
宗教学概論	講義	2	3	4	後期	2	宗教について「考える」	「宗教」とは何か、「宗教」について、様々な角度から考察を加える。	「宗教学」とはどういった学問分野なのか、「宗教」とはいつい何なのか、「宗教」をめぐる様々な問題はどのようにして起こっているのか、これらについて自ら思考し、独自の見解を持つ。	30	40	0	0	0	30	0		
日本史特論I	講義	2	3	4	前期	2	世界文化遺産からみる日本史	「世界文化遺産」にまつわる歴史を中心に、地域の成り立ちを読み解き、歴史と文化について考察する。	1. 日本の世界文化遺産に関する基礎知識を身に付ける。 2. 日本各地の具体的な歴史遺産(遺跡)から地域の歴史を読み解く力を身に付ける。 3. 遺跡の調査・保存・活用に関する方法論を学び、応用する力を育む。	30	30	20	10	10	10	0		
日本史特論II	講義	2	3	4	後期	2	文化的景観からみる日本史	日本の重要な文化的景観の諸事例を学ぶと通じて、現代につながる歴史の重層性の特徴を分析し、理解を深める。	1. 文化的景観という概念を理解し、重要伝統的景観の諸事例について基礎知識を身に付ける。2. 各時代の日本の生業や営みについての理解を深め、その重層性・変容の結果として成立している現代の景観を分析的に把握し、歴史をみる力を養う。	30	30	20	10	10	0	0		
日本史特論III	講義	2	3	4	前期	2	「往生伝」を読む	平安時代から鎌倉時代にかけて編まれた諸種の「往生伝」を素材として、文献史料を講読することから、文献史料を読む力を養うことを目標とする。	文献史料を正確に講読できるようになる。諸書類を適切に利用できるようになる。	0	30	30	40	0	0	0		
日本史特論IV	講義	2	3	4	後期	2	日記に見る教養芸能	古代から近世までの記録としての日記の中から、特に「教養芸能」に関する記事を取り上げる。それらを講読し、記録史料に親しむとともに、各時代の歴史的・文化的状況を考える基本を修得する。	各時代の歴史的・文化的状況を考える基本を修得し、またパーソナルに歴史を想起できる想像力を養う。	0	30	30	40	0	0	0		

歴史遺産学科 文化財保存修復・歴史文化コース カリキュラムマップ

人材育成目標(学科)	
現代社会における自らの立ち位置・役割を主体的に理解し、歴史的な観点から社会の諸問題に取り組むことのできる人格・教養を「人間力」として育成する。また、歴史遺産の調査・保存修復・活用に実践的に取り組むカリキュラムを通じて、新たな社会的価値観を創り出す創造的知性を「創造力」として育成することにより、文化財保存修復士はじめ、伝統文化・地域文化産業で活躍できる人材、社会科教員・研究者の育成を図る。	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位 必修/選択	テーマ	授業概要	到達目標	創造力				人間力				
		1	2	3	4					探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力		
古文書演習I	講義		2	3	4	前期	2	近世の文献史料を読解する	歴史研究において文献史料はもともと情報量の多い資料である。文献史料を読解することで、過去の情報を知ることができる。近世の様々な文献史料を読みこなすことにより、その読解力の基礎を身に付けることを目標とする。	近世の文献史料の読解力を身に付ける。調査方法の基礎を身につけ、すぐには判らないこと、判断がつかないことに対して、考える力をつける。	30	40					15	15
古文書演習II	講義		2	3	4	前期	2	近世の文献史料を読解する	近世の様々な文献史料を読みこなすことにより、読解力を更に深めることを目標とする。	近世の文献史料の読解力を身に付ける。すぐには判らないこと、判断がつかないことに対して粘り強く調べ、答えを導き出す姿勢を身に付ける。	30	40					15	15
古文書演習III	講義		2	3	4	後期	2	古代・中世の古文書に親しむ	古文書は過去の出来事を知るための重要な手がかりである。日本の古代・中世における古文書を教材として、その様式論・機能論について学ぶ。	古文書学の理解を深める。 1.様式論・機能論の体系的把握。 2.古文書学と歴史学・文化財学との関係性の有機的理解。	30	40		30				
古文書演習IV	講義		2	3	4	後期	2	古代・中世の古文書を読解する	古文書は過去の出来事を知るための重要な手がかりである。日本の古代・中世における古文書を教材として、その文字情報の読解に取り組む。	古文書の読解能力を身につける。 1.和化漢文を判読する能力の修得。 2.くずし字を判読する能力の修得。 3.古文書の内容を理解するうえで必要な調査能力の修得。	30	40		30				
フィールドワークI	演習	1	2	3	4	前期	2	現場に立って、無形と有形の歴史遺産	京都の遺跡や社寺、博物館などを实地に訪れ、様々な文化財の見学とレポート作成を通して歴史的に継承されてきた文化遺産の保存・修復・活用について考究する。	現地調査の心得と方法を学び、文化遺産に対する観察力を身につけること。また観察した内容を簡潔な文章にまとめ、内容的確に第三者に伝えることができるようになる。		20	20		40		20	
歴史遺産学基礎実習I(研究基礎)	演習	1	2	3	4	後期	2	歴史文化総合調査	京都の様々な歴史文化について、グループごとに研究テーマを設定し、現地調査を行い、成果を発表する。	①歴史遺産の保存や活用に関する研究テーマを導き出す力を養う。②研究目的を達成するために必要な調査計画を立てる地力を養う。③研究テーマに関して一定の知見をまとめる力を養う。	40	40				20		
歴史遺産学基礎実習II(文化財保存修復基礎実習I)	演習		2	3	4	前期	2	古文書・絵画ならびに民具の保存修復実習	①日本の紙の種類を識別し、制作(紙漉き)を通じてこれらの特性を理解する。②古文書の損傷に関して、その原因と対処方法を学び、修復に関する基礎実習を行う。③民具を主とした生活資料について、クリーニング・調書作成・保存修復等の基礎実習を行う。	①日本の紙の種類や物性について理解し、識別法の基礎を身につける。②古文書の損傷についてその原因を説明する方法を学び、保存修復技術の基礎を身につける。③民具の種類を見分ける力を養い、保存修復の基礎技術を習得する。	40	40				20		
歴史遺産学基礎実習III(文化財保存修復基礎実習II)	演習		2	3	4	後期	2	建築彩色技法ならびに保存科学実験	①寺院建築における彩色の保存修復に関する基礎実習(模写、補彩)②文化財の保存科学に関して、研究の基礎的方法論を学び、各種分析方法の基礎実習を行う。	①模写を通じて日本画の基礎技術を学ぶとともに、建築彩色技法の基礎を身につける。②文化財保存科学に関して、各種分析法の基礎理論を理解し、各種分析機器の操作法を身につける。③実験計画・実験レポートの作成を通じ、研究方法の基礎を身につける。	40	40				20		
歴史遺産プロジェクト演習I(フィールドワークII)	演習		2	3	4	後期	2	歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する課題に取り組む	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の3つの領域に分かれ、それぞれに関するプロジェクトにグループワークで取り組む。	①専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他者と協同して実行する。 ②活動成果を文章にまとめ、また公開発表する力を養う。		20	30		30	20		
歴史遺産プロジェクト演習II(歴史遺産学演習I)	演習			3	4	前期	2	歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する実践的課題に取り組む	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の3つの領域に分かれ、それぞれに関する実践的課題をグループワークで取り組む。	①現代社会から、歴史遺産に関する実践的課題を抽出する力を養う。②専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他者と協同して実行する。 ③活動成果を文章にまとめ、また公開発表する力を養う。④成果に対する反応を冷静に受け止め、今後の改善策を講じる力を養う。⑤各自が学んだ知識を活かし、プレゼンテーションなどを通じて、他者への正確な情報伝達方法を身につける。		20	30		20	30		
歴史遺産プロジェクト演習III(歴史遺産学演習II)	演習			3	4	後期	2	歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する実践的課題の解決に取り組む	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の3つの領域に分かれ、それぞれに関する実践的課題の解決にグループワークで取り組む。	①現代社会から、歴史遺産に関する実践的課題を抽出する力を養う。②専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他者と協同して実行する。 ③活動成果を文章にまとめ、また公開発表する力を養う。④成果に対する反応を冷静に受け止め、今後の改善策を講じる力を養う。⑤各自が学んだ知識を活かし、プレゼンテーションなどを通じて、他者への正確な情報伝達方法を身につける。		20	30		20	30		
歴史遺産学総合演習I	演習			3	4	前期	3	3回生ゼミ・進級論文作成に向けて	4年次での卒業論文作成に向けて、歴史遺産学における専門的な研究論文作成能力を養うことを目的とする。ゼミに所属し、先行研究の講読、研究テーマおよび研究計画の設定、研究・実験方法の検討を行い、中間発表会で中間成果を報告する。	先行研究を学ぶことにより、歴史遺産学に関する広範な専門的知識を身につける。ゼミ発表や小レポート作成により、論理的思考と文章表現能力を向上させる。論議や口頭発表により、表現力を向上させる。卒業論文にむけたテーマを決定する。		40		30		30		
歴史遺産学総合演習II	演習			3	4	後期	3	3回生ゼミ・研究論文をまとめ、発表する	「歴史遺産学総合演習I」での成果を発展させ、各自が具体的な研究テーマを設定し、研究論文に取り組む。授業では各自が進行状況を報告し、論議する。	具体的な研究テーマ・研究計画を各自が設定し、進級論文執筆するなかで論理的思考能力と文章表現力を向上させること。また、成果について客観的に分析し、到達点と課題を認識し、卒業研究の課題設定を行う。		40		30		30		
歴史遺産学総合演習III	演習			4	前期	4	4	新たな知見をもつ研究論文を執筆する	段階的に蓄積してきた基礎的教養と専門的知識・技術をベースとして、歴史遺産の調査・保存・修復・活用を地域社会において実践することの意義をあらためて認識しつつ、各自がこれに資するに足る「歴史遺産学」を構築するための研究を進める。	課題解決に向けて長期間にわたって計画的に取り組むことで、持続力を身に付ける。的確なデータ収集と分析を行うこととこれに依拠した論述によって論理的思考能力・文章表現力を向上させる。新たな知見を生み出すことによって創造の喜びを得る。			40	30		20	10	
卒業研究・制作	演習			4	後期	4	4	新たな知見をもつ研究論文を執筆し発表する	段階的に蓄積してきた基礎的教養と専門的知識・技術をベースとして、歴史遺産の調査・保存・修復・活用を地域社会において実践することの意義をあらためて認識しつつ、各自がこれに資するに足る「歴史遺産学」を構築し、卒業論文を執筆し発表する。	課題解決に向けて長期間にわたって計画的に取り組むことで、持続力を身に付ける。的確なデータ収集と分析を行うこととこれに依拠した論述によって論理的思考能力・文章表現力を向上させる。新たな知見を生み出すことによって創造の喜びを得る。卒業論文を完成させることで、課題抽出からアウトプットまでの方法論を身に付ける。			40	30		20	10	

428

合計	24	66
----	----	----

	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
ポイント計	1480	2280	1240	1740	300	820	840
比率	17.0%	26.2%	14.3%	20.0%	3.4%	9.4%	9.7%